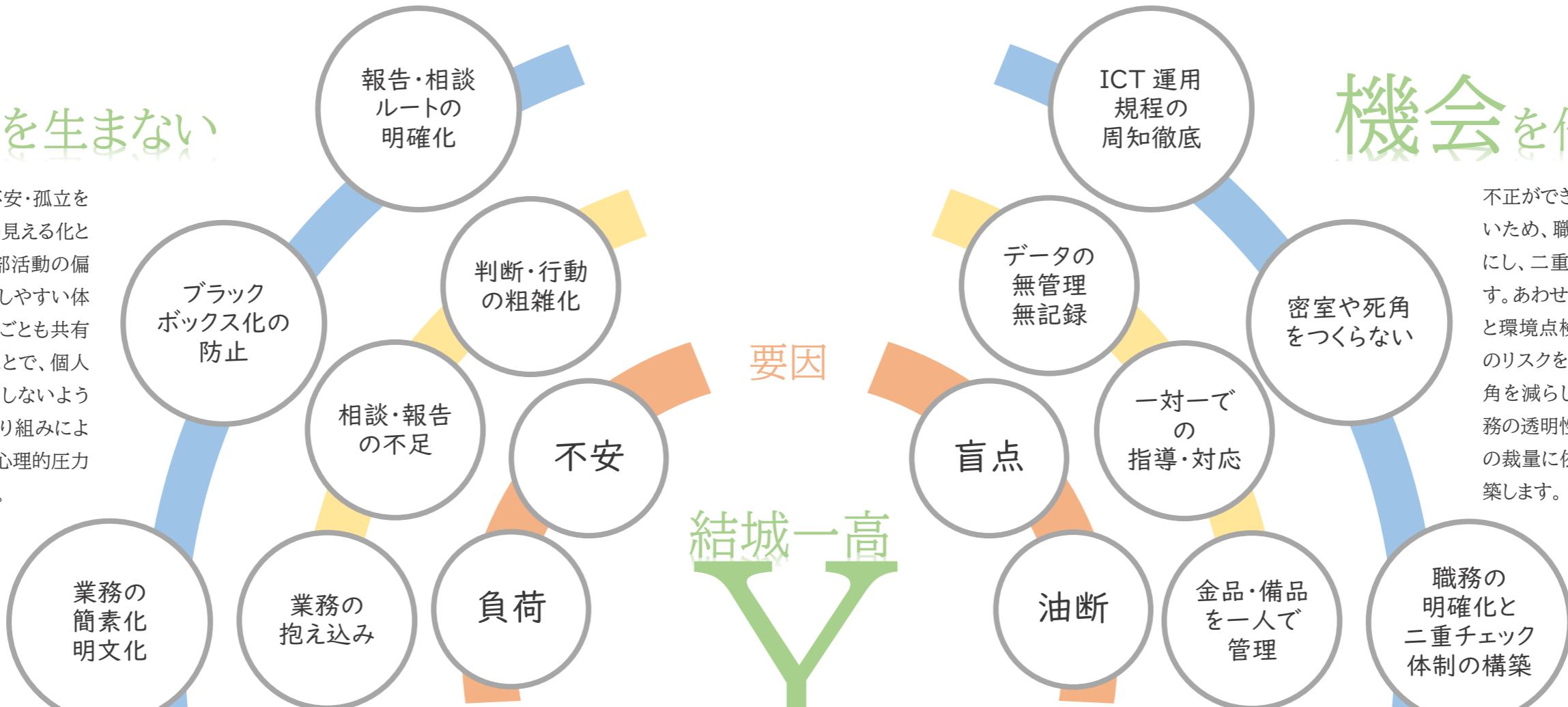


動機を生まない

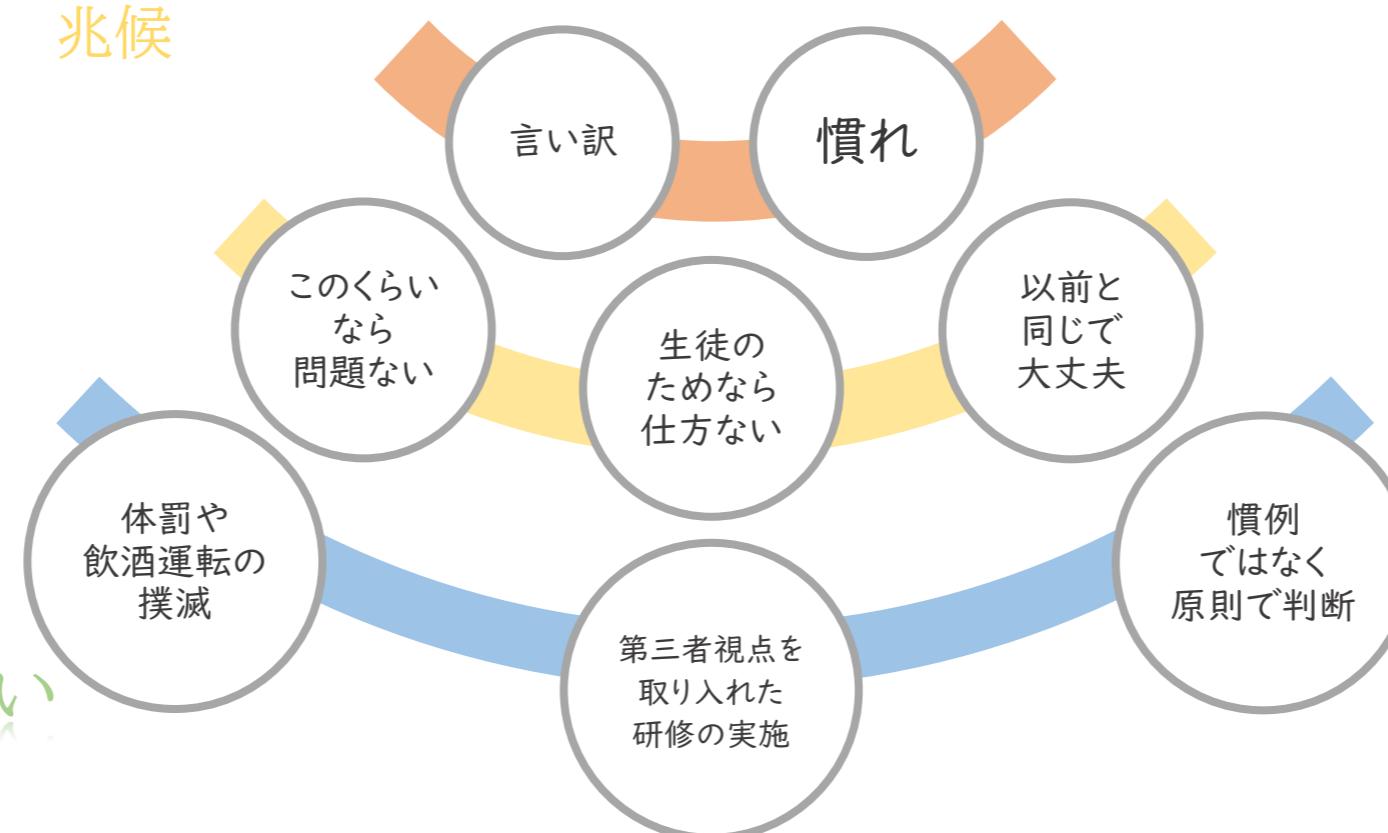
教員が抱える負荷・不安・孤立を減らすため、業務量の見える化と分担を進め、校務や部活動の偏りを解消します。相談しやすい体制を整え、小さな困りごとも共有できる文化をつくることで、個人に過剰な責任が集中しないようにします。これらの取り組みにより、不正の動機となる心理的圧力を軽減してまいります。



機会を作らない

不正ができるてしまう状況を生まないため、職務や管理権限を明確にし、二重チェックを標準化します。あわせて、月1回の徹底清掃と環境点検を行い、文書管理上のリスクを低減します。密室や死角を減らし、記録・ログにより業務の透明性を高めることで、一人の裁量に依存しない仕組みを構築します。

正当化を許さない



「慣例だから」「忙しいから」といった正当化を防ぐため、学校として許容できない行為を明文化し、ケース研修で価値観を共有します。相談・報告を歓迎する姿勢、ミスを隠さなくてよい文化を育てていきます。外部の視点や第三者によるチェックなどを取り入れ、独善的な判断や慣例が生じない環境づくりを目指してまいります。